

こども通信

朝晩はすっかり涼しくなり、秋の気配が感じられる季節になりました。子どもたちが元気に走り回る姿に、季節の移り変わりを実感する今日この頃です。

さて、今年は例年よりもかなり早くインフルエンザの流行が始まってしまいました。日々の体調管理に頭を悩ませている親御さんも多いのではないのでしょうか。

過ごしやすい季節はわずかです。雪が降るまでの間、楽しく過ごせるといいですね。



イト・クリニック」が開業しました。高田中心部にできた「小児科空白地帯」を無くしたいという思いからです。

私は仲町で生まれました（儀明川で生湯を使ったという話を聞かされたものです）。以来18年間、高田の真ん中で過ごしていました。幼稚園は高田幼稚園（当時は大手町小学校の隣に園舎がありました）。小学校は大町小学校、中学は城北中学、高校は高田高校。すっかり「高田っ子」でした。

先月、当院の分院である「サテラ

* *

田に小児科医がいました。開業して36年が経ちますが、新規に開業する小児科医は高田の中でも直江津より

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科

上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

ホームページ
www.kodomo-iin.com



感染症情報

インフルエンザの発生が増加し、新潟県には発生注意報が出されました。注意報が出されるのは昨年より約2ヶ月早いです。さらに今後、発生が大きくなるのではないかと心配しています。インフルエンザの本格的な流行は冬になると思います。当院でも今月から予防接種を始めます。ぜひ受けてください。

新型コロナウイルス感染症の流行も始まっています。発熱、咽頭痛などが主な症状ですが、症状だけでは他の感染症と区別が付きづらいです。園や学校、あるいはご家庭での流行の様子が参考になります。予防はマスク、換気、三密を避けるなど、重層的に行ってください。

ヘルパンギーナ、手足口病といった夏かぜは減ってきました。熱や喉の痛み、発疹がみられます。

ヒトメタニューモウイルス感染症、RSウイルス感染症が少し流行しています。小さな乳児がかかると重症になることがあります。

感染性胃腸炎の発生があります。嘔吐と下痢があり、乳幼児では脱水や低血糖にならないように注意が必要です。

溶連菌感染症も少しですが発生があります。強い咽頭痛と発熱が特徴です。抗菌薬による治療が必要です。

麻疹（はしか）の発生はありませんでした。しかし全国的には麻疹患者は相当出ています。麻疹は予防接種が重要です。1歳と、小学校入学前1年間の2回接種を行っています。早めに受けてください。

の地区です。高田中心部、そして妙高寄りの地区では徐々に小児科開業医が少なくなり、とうとう数年前にゼロになりました。何とかならないものかと思っていました。幸いにも、私は息子と一緒に仕事をしています。午後は比較的余裕があるのが実態でした。

私は今年度、古希になる年齢（先日、敬老会の案内が来ていました。もちろんスルーしました）。あと10年ほどはこれまでと同様に働けるかな、と思っています。であれば、午後だけでも高田で開業する意味はあるのかな。そんな考えで、サテライトを作り、息子に診療を委ねました。まだできることは少ないですが、高田中心部の空白地帯を埋めることの意味はありそうです。今後とも宜しくお願いします（本院の方も忘れなく）。

インフルエンザ

すでに流行しています

インフルエンザの流行がすでに始まっています。これほど早いのは、私も経験がありません。

新潟県内全域において、9月28日に「インフルエンザ注意報」が発令されました。9月中の注意報発令は過去10年間で最も早く、例年（12月頃）に比べて非常に異例の早期流行となっています。

原因はインバウンドの増加などと言われていますが、よく分かりません。きつと複合的な理由によるものだと思います。

今回の流行では、特に5歳～9歳の小さな子どもたちを中心に感染が広がっているのが特徴です。今後、幼稚園や保育園、小学校などでの集団感染や、ご家族内での二次感染がさらに懸念されます。

子どもたちの健康を守るため、保護者の皆様には以下の点について、改めてご確認とご注意をお願いします。

●発熱や風邪症状がある場合のお願い

・登園・登校の自粛…発熱、咳、どの痛み、だるさなどの症状がある場合は、登園や登校、習い事などを無理せず休ませてください。

・早めの医療機関受診…急な高熱や関節痛などインフルエンザが疑われる場合は、かかりつけ医にご相談ください。

・外出時のマスク着用…症状があり、やむを得ず外出・受診される際は、周囲への感染拡大を防ぐため、マスクの着用をお願いします。

●ご家庭でできる基本的な予防対策

・手洗いの徹底…帰宅時や食事の前には、石けんで丁寧な手洗い（または手指消毒）を行うよう、子どもたちへの声掛けをお願いします。

・人混みを避ける…流行期の間は、できるだけ混雑する場所への外出を控える

か、短時間にとどめる工夫をしてください。

・十分な休養と栄養…免疫力を落とさないよう、規則正しい生活と十分な睡眠、バランスの良い食事を心がけましょう。

●予防接種も始まります

点鼻の生ワクチンと、注射による

不活化ワクチンがあります。対象年齢は、生ワクチンでは2歳から18歳

までで、1回の接種です。不活化ワクチンでは生後6か月以上、上限はありません。12歳までは2回、13歳以上は1回の接種です。

本格的に流行が拡大する冬場に向けて、免疫を作っておくようにしてください。

塚田こども医院

高田地区の小児科空白解消

西城町1に分院開院

上越市の中心部で子どもの数が多い地域にもかかわらず、開院など小児科医院がなかった高田地区に今月、小児科が

開院した。直江津地区で36年にわたって子どもたちの健康を支えてきた塚田こども医院（同市栄町2）の塚田次郎院長

「塚田こども医院サテライト・クリニック」の場所は、同市西城町1の上越教育大学付属小学校グラウンドの向かい側。敷地面積は約1000平方

メートル、延べ床面積は約1000平方メートル。診察室は8月、火、木、金の各曜日の午後2～6時（同2、3時は予防接種）となっている。塚田院長と共に本院に勤務する長男の塚田大樹医師（46）が診察

日スタッフ6人と共に診療を行う。高田地区（旧高田市区）の小児科医院は、ここ10年ほどで医師の高齢化や様々な事情で3院が閉

院、1院が市外に移転した。地区の中心地である高田地区の15歳以下の子ども

の数は8月末現在約2652人で、隣接区

にも含めると市内でも子どもの多い地域だが小児科医院はゼロとなっていた。

塚田院長は「（自身は）開院は

に医療に併設して市内で初めて病児保育室を開設するなど、小児医療の充実と子育て支援に取り組んできた。『来年で70歳

になり、あと10年くらいは仕事ができる。生まれ育った高田に開院した意味はあると思う。気軽に利用してほしい』と呼び

掛けている。

上越よみうり

9月12日(土)

開院した「塚田こども医院サテライト・クリニック」



塚田こども医院の塚田次郎院長